

## 荒牧講師への質問と回答

Q. 1 溶岩流についての防災は具体的に紹介されていたが、その他、火山灰や火砕流などの防災対策についても、教えてください。

A. 火山灰が大量に降るような災害は富士山では宝永4年の大噴火の際に見られました。住居地域で最大3mくらいスコリア(黒色の軽石)や火山灰が堆積したところの家屋は全滅しました。10cm以上堆積した地域では、噴火後の大雨により土石流・洪水の被害が起きました。もちろん農産物は全滅し、噴火後数十年間にわたり悪い影響がありました。被害を軽減する方法は被害の状況によって様々です。火砕流は発生してから逃げるのでは遅すぎます。火砕流に追いつかれたら必ず死にます。しかも予測が出来ないので、火口からなるべく遠くへ離れて避難することが基本です。

Q. 2 噴火時、山に囲まれている富士吉田において、地元はどのような避難対策をしたら良いのか、又避難経路はどうする方が良いのかアドバイスをお願いします。

A. 火山噴火の様式はいろいろありますから、実際に起きる噴火様式に適応した避難のやり方をとるのが重要です。現在県や市町村の防災担当部局が、避難計画をつくっているところです。基本的には桂川の谷に沿って、下流方向(富士山から遠く方向)へ避難すべきです。噴火の形式によって避難方法は異なりますが、富士山から離れる方向へなるべく早く避難出来る経路を選ぶべきでしょう。

Q. 3 噴火が予報できるとの説明で少し安心できましたが、その予報により逃げる時間(余裕)はあるのでしょうか。

A. 予報が出来ると言っても、天気予報のような正確さはなく、極めてあいまいな予報となる場合が多いと予想されます。過去の限られた経験からは、大規模な噴火は比較的早くから異常が発見される可能性があります。小規模な噴火は直前になるまで前兆がわからない場合が多いと考えられます。したがってすべての場合に余裕を持って逃げる時間があるとは言いきれませんが、かなりの確率である程度の予測が出来るのではないかと考えています。